

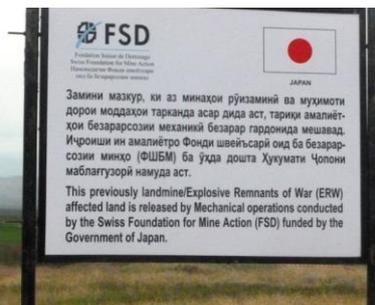
対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力 タジキスタン地雷除去活動支援計画

タジキスタンでは、1991年の独立直後、当時の政府軍と反政府軍による内戦が勃発しました。1998年まで続いた内戦の期間中、政府軍及び反政府軍双方により、国内に20万個以上の地雷が埋設されたと言われています。タジキスタンで地雷除去を行う政府機関「タジキスタン地雷除去センター」によれば、1992年から2010年の間に地雷による被害者が814人（内死亡者360人、負傷者454人）報告されており、内3割は子供とされています。また2,000件以上の家畜被害が生じ、地域経済にとって深刻な問題となっています。

我が国は、タジキスタンにおける地雷除去活動が、地域住民の安全及び地域経済の活性化に不可欠であり、中央アジア地域の安全保障と平和構築に貢献するものであるとの観点から、タジキスタンにおいて地雷除去活動を行っている「スイス地雷除去財団（FSD）」への地雷除去機材等の支援を通じて、タジキスタンにおける地雷除去活動を支援しています。



タジキスタンとアフガニスタンの国境地帯に位置するファルホール行政郡ガラバ地区にて完了式が行われました。



地雷除去を終えた各サイトには日本の支援を示すサインボードが設置されていました。



除去された地雷。



我が国のODAステッカーがMV-4（地雷除去車両）の車体及びFSDの備品にも貼付されています。



安全地帯となった土地の引渡書をカモロフ副行政郡長（写真右）に手渡す今橋大使（写真左）及びシュミッドFSD局長（中央左）。